

「無痛MRI 乳がん検診」が掲載されました

# 乳がん検診 ためらわないうで

# 無痛MRI 県内初導入

MRI装置を使った無痛の乳がん検診が県内で初めて、秋田市の中通総合病院に導入された。乳がんは女性の9人に1人が患うとされるが、現在主流のマンモグラフィ（乳房エックス線撮影）では痛みに耐える必要があり、抵抗感を抱く人は少なくない。奥山慎院長は「これまで検診をためらっていた女性が受診するきっかけになればうれしい」と話す。

## 中通総合病院（秋田市）

無痛MRI乳がん検診は、秋田大医学部出身で放射線科専門医の高原太郎さん（62）が開発し、2018年に実用化された。受診者は胸部がくぼんだ専用ベッドにつつぷせになって円筒形のMRI装置に入る。主方位から画像を撮影し、高原さんが代表を務めるドゥ

イブス・サーチ社（東京）にデータを送信。1週間ほどで詳細な診断結果が届く。大きなメリットは、検診時に痛みがないことだ。自治体検診でのマンモグラフィは、乳房を装置で挟んでエックス線撮影をするため、痛みを伴う場合が多い。無痛MRI乳がん検診では乳房を圧迫せず、造影剤を注射する必要もない。精度の高さも特長だ。マンモグラフィは乳房が白く濁って写り、日本人に多い乳腺の発達した「高濃度乳房」ではがんが見つかりにくいとされる。一方、MRIでは乳腺がほとんど写らない。見えにくい脇の下のリンパ節も3D画像で確認できる。高原さんによると、国内4病院で行った2948例で乳がんの発見率は約2%に達した。調査数が異なるため単純に比較できないが、一般的なマンモグラフィの0.3%を大きく上回った。無痛MRI乳がん検診は放射線被ばくがなく、検査衣を着たまま受けられる。ただ、装置の中で15分ほど静止する必要があり、閉所恐怖症の受診者は苦痛に感じる可能性もあるという。

国立がん研究センター（東京）の調査では、19年の女性の乳がん罹患率は30代以降で上昇し、特に40代以降は高止まりしている。がんで亡くなった女性のうち、30〜64歳では乳がんが最多だった。ただ、全国の乳がん検診の受診率は47%（国民生活基礎調査）にとどまっている。ドゥイブス社によると、MRI装置による乳がん検診を導入している国内の医療機関は6月時点で53カ所。これまで約2万2千人が受診した。検診費は2万〜3万円程度で、公的医療保険は適用され

ない。県外では費用の3分の2を補助したり、ふるさと納税の返礼品にしたりする自治体もあるという。中通総合病院は、マンモグラフィ受診者から痛みを訴える声があったことを受け、6月に導入。検診費は1万9800円。奥山院長は「早期発見、治療のため、新たな選

択肢として検診してほしい」と語った。予約は同院ホームページからアクセスできる専用サイトで受け付ける。問い合わせは同院人間ドック担当 ☎018-8333-1122（高橋さつき）



県内で初めて中通総合病院が導入した無痛MRI乳がん検診の装置とスタッフ